

ワークショップによる「北海道流」 物流マッチングモデル『ロジスク』

北海道開発局 開発監理部 開発調整課

令和6年11月6日（水）

総論

- ・取組の背景・目的
- ・「ロジスク」とは？
- ・「ロジスク」誕生の経緯
- ・「ロジスク」の開催実績
- ・「ロジスク」の流れ

各論

- ・ロジスクの実際
 - ①次第の例
 - ②1回当たりワークショップの時間
 - ③会場の例
 - ④ワークショップへの参加企業数
 - ⑤マッチングテーブル案の作成
 - ⑥エントリーシート(物流会社の例)
 - ⑦エントリーシート(荷主会社の例)

開催結果

- ・アンケート結果
 - ①希望する参加企業の業種
 - ②マッチングに向けて
 - ③参加企業の感想
- ・「ロジスク」マッチング事例の紹介

■ 総論

- ・取組の背景・目的
- ・「ロジスク」とは？
- ・「ロジスク」誕生の経緯
- ・「ロジスク」の開催実績
- ・「ロジスク」の流れ

取組の背景・目的

■第9期北海道総合開発計画（令和6年3月12日閣議決定）

- 北海道開発法に基づき、
北海道の資源・特性を活かして
我が国が直面する課題の解決に貢献
地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画

＜我が国を取り巻く状況の変化＞

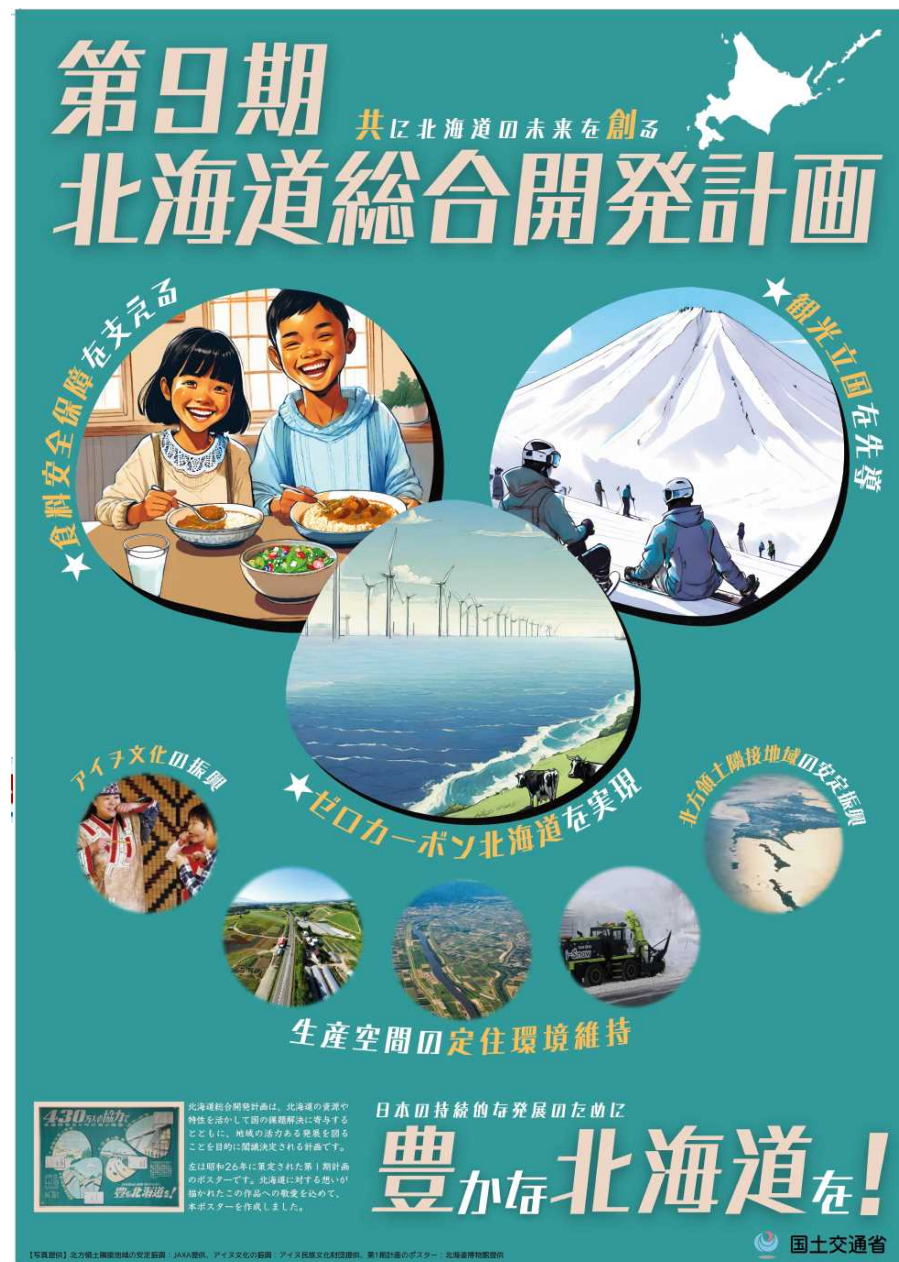
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開
- ・食料安全保障の顕在化等

《計画の目標》

- 1 我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道
- 2 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

（計画の期間）

2024年度からおおむね10年間



取組の背景・目的

■第9期北海道総合開発計画 主要施策1

「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導

食料安全保障

全国約24%の食料生産（カロリーベース）

生産量全国一の農畜産物・水産物
小麦、ばれいしょ、たまねぎ、生乳等
ホタテ、タラ、サケ・マス、ホッケ等

観光立国の再興

感染症拡大前の直近5年間で
来道外国人旅行者数 164万人増
（平成26年137万人⇒令和元年301万人）
都道府県魅力度 15年連続全国一

2050カーボンニュートラル

全国一の再生可能エネルギー賦存量
洋上風力、陸上風力、太陽光、
森林吸収、バイオマス、
ブルーカーボン、中小水力

北海道のポテンシャルを活かし、我が国の豊かな暮らしを支える
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～

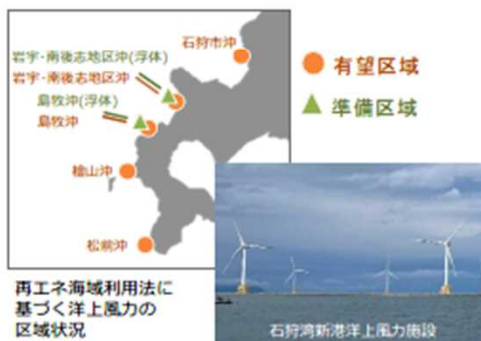
主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

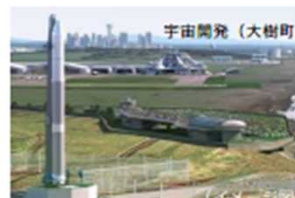
スマート農業導入による生産性向上



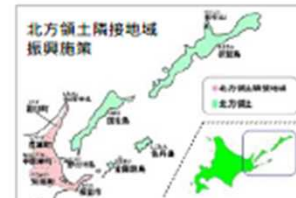
※ 北海道開発局は地方整備局の機能に加え、農業基盤整備を所掌



出典：Rapidus（株）



出典：SPACE COTAN株式会社



観光資源JAPOW（Japan Powder Snow）



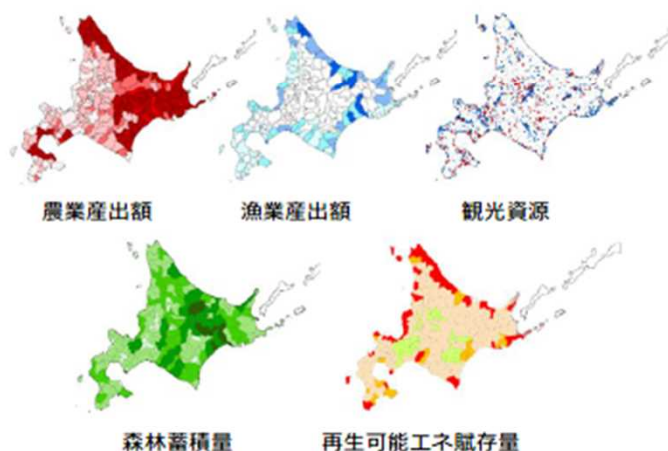
民族共生象徴空間ウポポイ（白老町）
誘客促進

取組の背景・目的

■第9期北海道総合開発計画 主要施策2

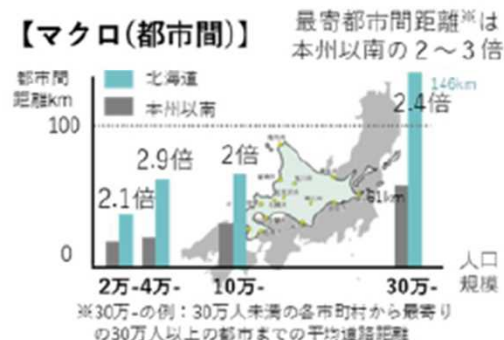
北海道の価値を生み出す生産空間の定住環境を維持

北海道の価値を生む「生産空間」の分布

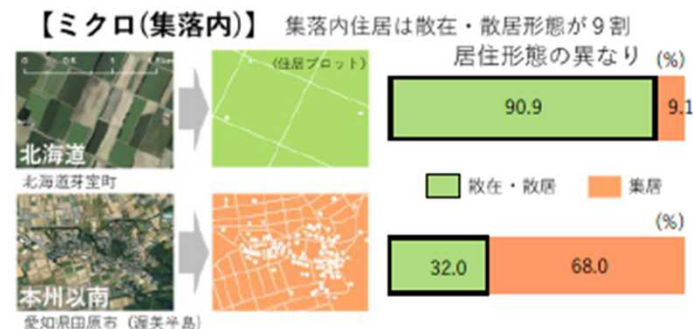


北海道の生産空間の構造的課題【定住環境の厳しさ＝二重の疎】

【マクロ(都市間)】



【ミクロ(集落内)】



+ 積雪寒冷の厳しい気候、千島海溝地震の切迫

北海道の価値を生み出す北海道型地域構造の維持 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた
人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる
強靱な国土づくり

教育委員会との連携
「ほっかいどう学」の展開

千島海溝地震による津波避難対策特別強化地域(39市町)



対2024年問題対策
「北海道物流WEEK」
(令和6年2月19日～22日)

高規格道路の整備促進

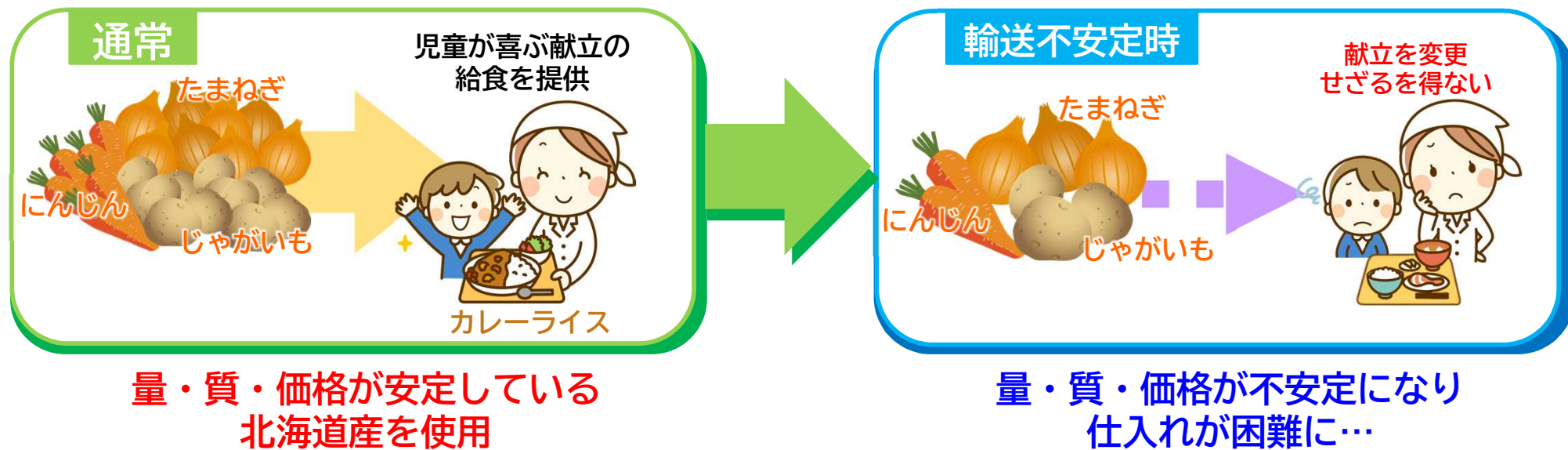
令和6年4月から「自動車運転の業務」に働き方関連法が適用

- ✓ 時間外 9 6 0 時間の上限
- ✓ 拘束時間は、1 日 1 3 時間以内(運転は 2 日平均で 9 時間以内)

$$\begin{aligned} \text{拘束時間} &= \text{労働時間} + \text{休憩時間} \\ \text{労働時間} &= \text{作業時間}(\text{運転} \cdot \text{整備} \cdot \text{荷扱い}) + \text{荷待ち時間} \end{aligned}$$

⇒ 北海道内の物流の転換が必要

例えば、北海道産農産物が安定的に輸送できなくなると…



「ロジスク」とは？

ワークショップによる物流事業者間のマッチングモデル
「ロジスク」

(ロジスティクス+スクラム)を
R5年度からスタートしました。

物流の課題を解決するために、
北海道開発局、北海道運輸局、
北海道経済産業局、北海道の
4者が連携した全道的な共創
の取組です。

ワークショップによる「北海道流」物流マッチングモデル

ロジスク



すくすく、ロジスク

「ロジスク」誕生の経緯 道北の物流課題解決に向けた検討と取組

道北地域の恒常的な物流課題

地理的条件

- 都市部からの時間距離が遠い
- 主要貨物(農畜水産物)の貨物量の季節変動が大きい

社会的条件

- 宅配輸送への偏重
- 地方部の人口減少の加速

物流課題

- 片荷等の非効率な輸送形態
- 高コストの物流

- 宅配事業の収益環境悪化

道北物流業の衰退・宅配サービスの縮小が懸念される事態

名寄周辺を核として課題解決に向けた検討と取組がスタート

民間の取組

「道の駅を活用した地域連携物流システム」の提言

- 北洋銀行・北海道物流開発の民間2社が、地域のための地域による共同輸送の構築について提言

民間の取組

「道北経済人フォーラム」開催

- 名寄商工会議所が開催
- 道北北部の荷を名寄に集約し、共同輸送する取組を検討

行政の取組

名寄周辺モデル地域圏域検討会

- 物流ネットワークの効率化に有効な取組の検討
- ⇒ 共同配送、貨客混載、**拠点集約化**等

名寄周辺モデル地域圏域検討会

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

地域の取組

宅配事業者間の連携スタート

- 名寄市が中心となり、大手宅配業者の配送拠点の相互共同利用を実現

名寄周辺モデル地域 物流WT

地域からのアイデア

地域の物流機能を維持するために「道の駅」が使えるのでは？

- 主要幹線道路に面している
- 人や地元産品が集まる
- ⇒ **貨物の集積拠点に適しているのでは**

道の駅利用の課題

- 「道の駅」を物流目的で使用可能か
- 複数の温度帯をどう運ぶのか
- 「誰が」「どうやって」運ぶのか

地域の関係者による議論



令和2年

共同輸送実証実験

- トラック運行状況、積載物の状況、積載率からトラックの空きスペースを利用した混載輸送の可能性を確認し、『道の駅トラック時刻表』を作成
- 時刻表を活用し、道の駅「もち米の里なよろ」を物流拠点として、名寄以北の共同配送を試行



共同輸送の調査・試行によって道の駅の「物流拠点」としての利用可能性を検討

地域の取組

道北圏域ロジスティクス総合研究協議会 設立

- 地元民間企業を中心とした検討体制も構築

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

産学官の取組

「共同輸送・中継輸送実装研究会」設立

- 持続可能なシステムとするために、より多くの民間事業者の参画を求めながら、マッチングの仕組みづくりを行うため、検討・実証を行う

「ロジスク」誕生

- 物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場を提供

新たな物流課題

- トラックドライバーの不足
- 2024年問題

「道の駅」等を活用した小ロット貨物の効率化や中継輸送の実証・可能性検討、道北物流調査

中継輸送実証実験



- 「道の駅」において、様々な中継方式（ヘッド交換・ドライバー交換等）/輸送経路で中継輸送の実証実験を実施。効果を確認。



「ロジスク」の開催実績

■ 令和5年度

【道北ロジスク】 令和5年10月6日（旭川市）

※共同輸送・中継輸送実装研究会主催
（事務局：北海道開発局・名寄市・名寄商工会議所）

【道央ロジスク】 令和5年12月4日（札幌市）

※共同輸送・中継輸送実装研究会主催
（事務局：北海道開発局・名寄市・名寄商工会議所）

■ 参考：ロジスクに関連するイベント

（トラック運送業者連携・共創の集いin十勝）

令和6年2月21日（帯広市）

※北海道運輸局、北海道開発局主催

■ 令和6年度

【道東ロジスク】 令和6年7月17日（釧路市）

※北海道開発局・北海道運輸局・北海道経産局・北海道共催

【道南ロジスク】 令和6年7月26日（函館市）

※北海道開発局・北海道運輸局・北海道経産局・北海道共催

【道北ロジスク】 令和6年9月24日（名寄市）

※共同輸送・中継輸送実装研究会・北海道運輸局・北海道経産局・北海道共催

【道央ロジスク】 令和6年10月23日（札幌市）

※北海道開発局・北海道運輸局・北海道経産局・北海道共催

R 6 道東ロジスク

■ ワークショップ

■ フリートーク



R 6 道南ロジスク

■ ワークショップ

■ 集合写真



「ロジスク」の流れ

① 山積する物流課題

- 長時間輸送を改善したい
- ドライバー不足で輸送できない 等

② エントリー

- 参加申込
- エントリーシートの記入
 - ・ 自社の輸送業務概要
 - ・ 共同/中継輸送を行いたい業務
 - ・ …などを事前に参加企業と共有

③ ワークショップに参加

- 事前に事業概要等の情報を参加事業者間で共有
- マッチングの「種」探し
- テーブルにて物流課題を協議

③から

④ 成立に向けたフォローアップ

- マッチングが成立しそうな企業と具体化に向けて直接協議
- 事務局は仲介役として適宜協議参加

⑤ 共同輸送・中継輸送成立



④へ

■ 各論

・ロジスクの実際

- ①次第の例
- ②1回当たりワークショップの時間
- ③会場の例
- ④ワークショップへの参加企業数
- ⑤マッチングテーブル案の作成
- ⑥エントリーシート(物流会社の例)
- ⑦エントリーシート(荷主会社の例)

ロジスクの実際①(次第の例)

日時：令和6年10月23日(水) 13:30~17:00

場所：札幌第一合同庁舎 2階講堂 (札幌市北区北8条西2丁目)

1. 開会挨拶 北海道開発局 開発調整課長 (5分)

2. 情報提供 (20分)

3. ワークショップ進行説明 (5分)

4. **ワークショップ(マッチング) (140分)**

ワークショップ① 30分 (+移動5分)

ワークショップ② 30分

休憩 10分

ワークショップ③ 30分 (+移動5分)

ワークショップ④ 30分

— 報道機関入室許可 —

※ワークショップ④の座席に事業者が着席した状態で、マスコミによる写真撮影や録画を実施

5. 交流時間(フリートーク) (25分)

○主催各機関からの挨拶・相談ブース紹介

①北海道開発局、②北海道運輸局、③北海道経済産業局、④北海道

○参加者交流時間(フリートーク)

6. 感想等全体共有 (10分)

7. 閉会挨拶 北海道開発局 札幌開発建設部次長 (5分)

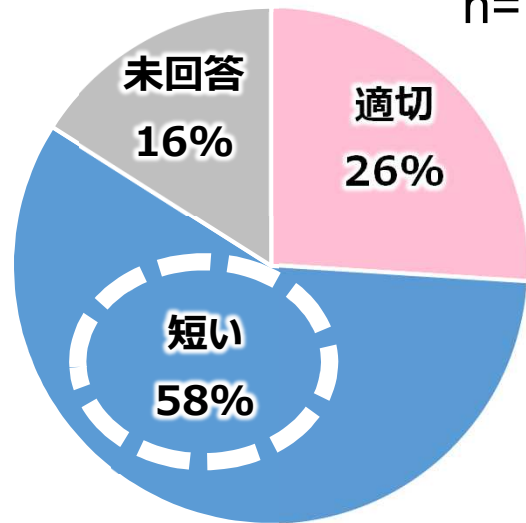
ワークショップの時間は
1回当たり30分で4回
実施

マスコミの入室は
ワークショップ終了後とする
(企業秘密保持や
話しやすい雰囲気づくり)

ロジスクの実際②(1回当たりワークショップの時間)

～アンケートの結果から～

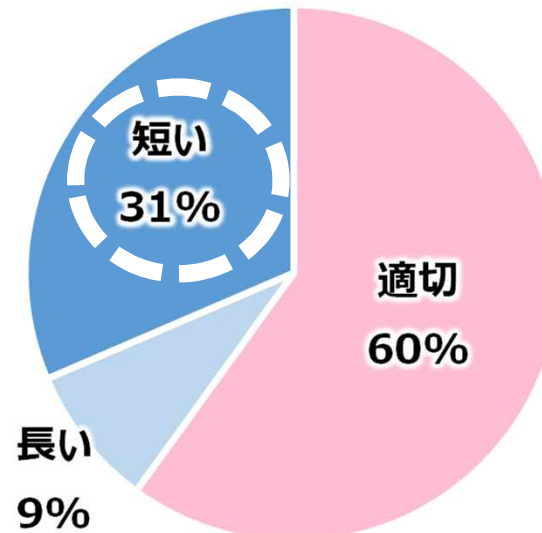
【R5道北】 時間(20分)について
n=19



【R6道東】

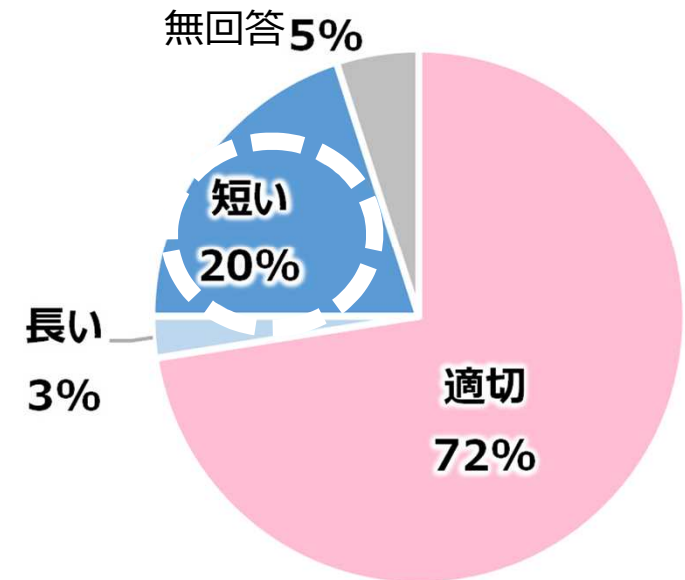
n=35

時間(25分)について



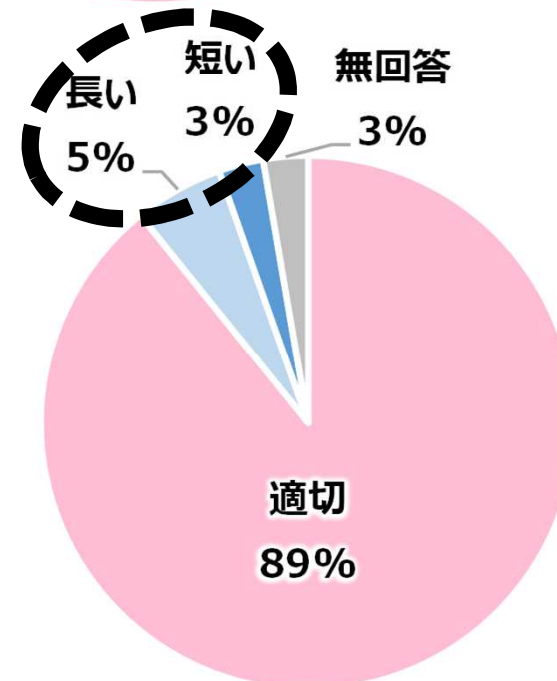
【R6道南】

n=40



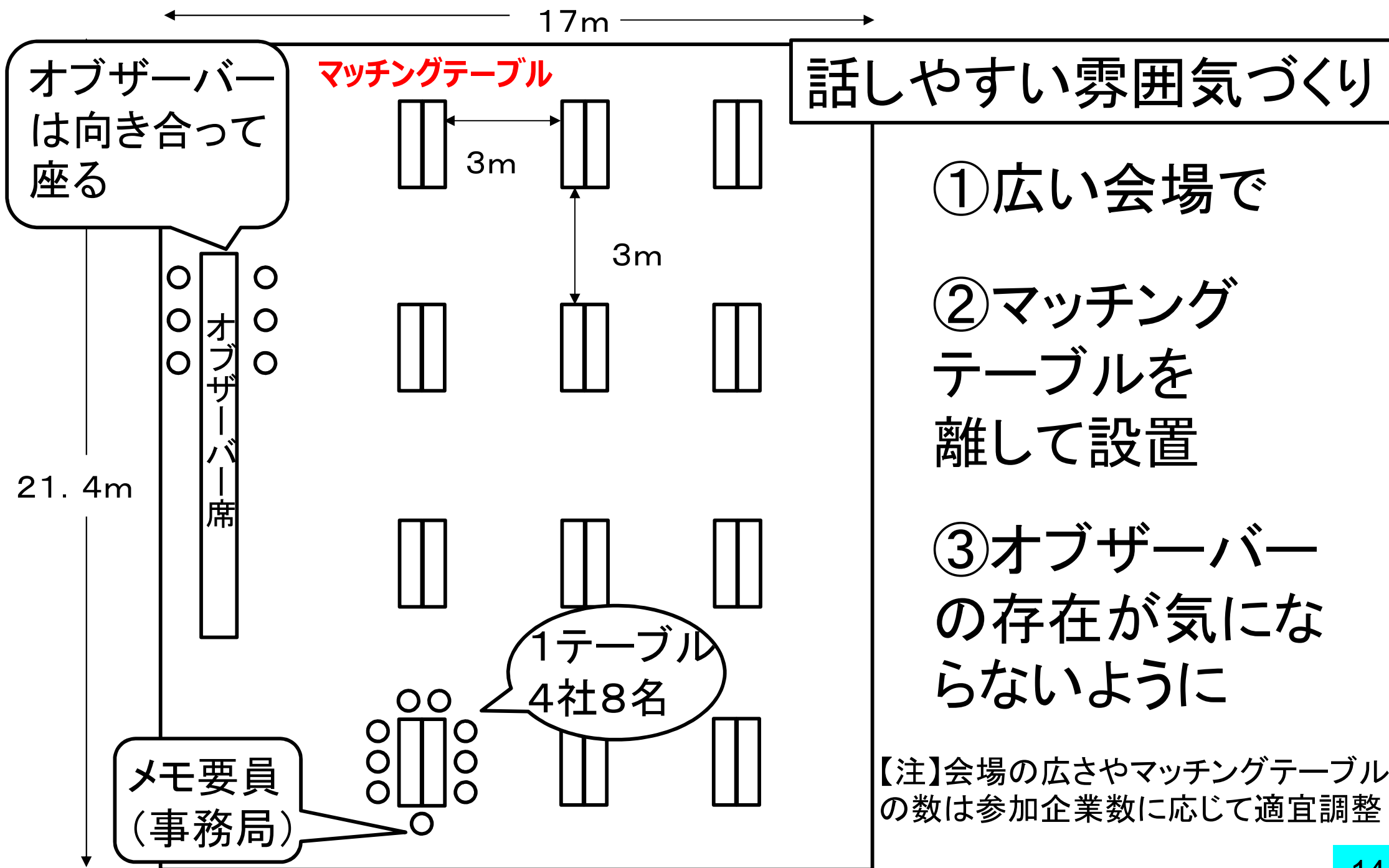
【R6道北】

時間(30分)について
n=37



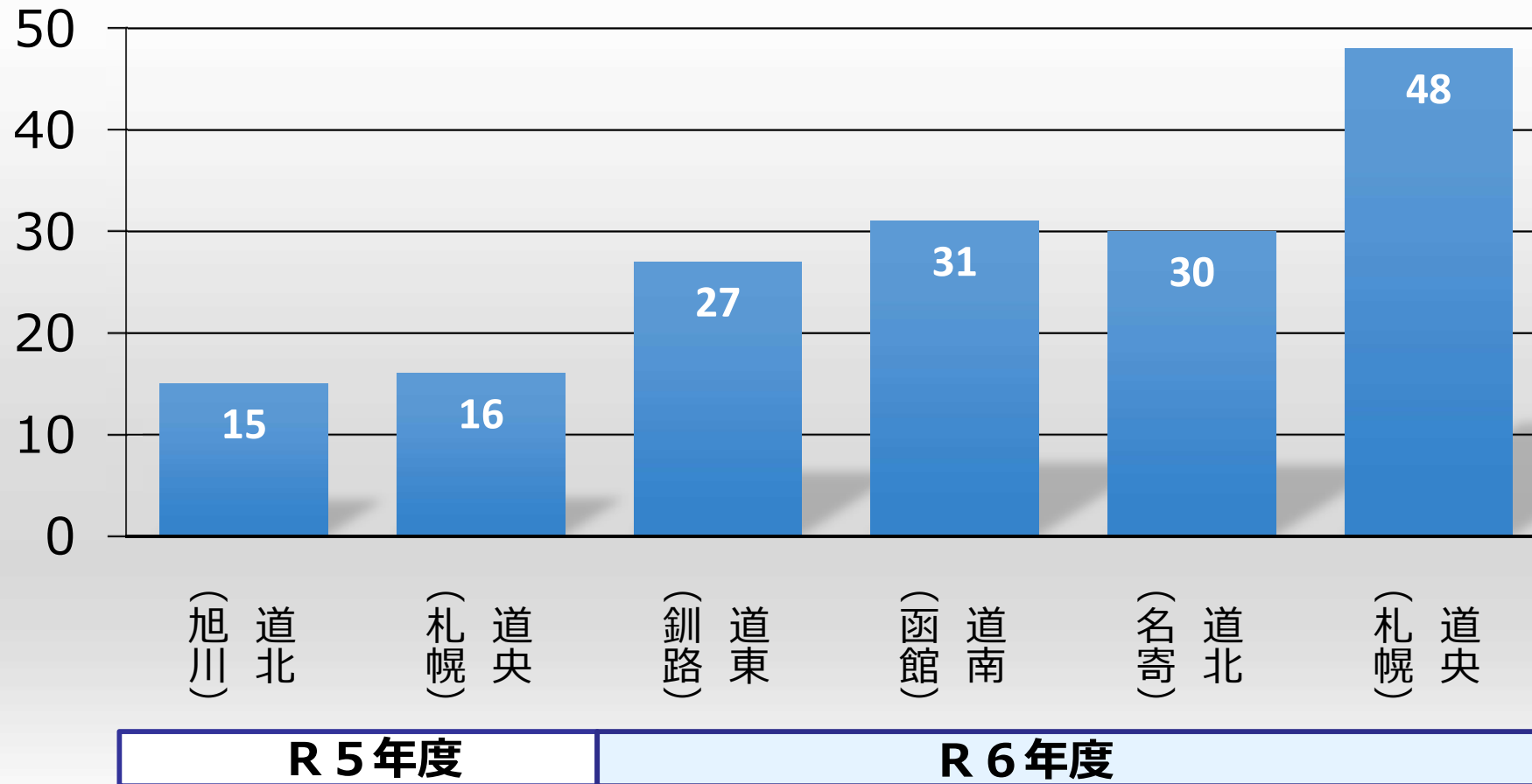
1回当たりワークショップの時間を30分にしたところ、短い・長いとの回答が激減した。

ロジスクの実際③(会場の例)



(企業数)

参加企業数の推移



【注】参加企業数は、会社ベースでカウントし、オブザーバーを除く数

募集方法

R5: 声かけのみ

R6: 声かけ+公募(※)

※北海道運輸局、北海道経済産業局、北海道を含む4者共催によるプレスリリースのほか、該当する地区のトラック協会等からの加盟企業への周知

マッチングテーブルとは

- 概ね4社1テーブルで話し合う場
(各社のニーズに合わせた組合せが重要)

目的

- マッチングが進むように
(共同輸送、中継輸送、片荷の解消等)

手段

- エントリーシート of 「マッチング希望の概要」を基に、輸送ルート、温度帯、時間帯、希望する連携内容などから
テーブルの配席を考える。

No.● ○○物流(株)

【注】下記は事実を基に作成した架空の内容です。

	自社の概要	マッチング希望の概要
輸送品目	■ 日用品・雑貨	
輸送ルート	■ 北広島市→道東 ■ 北広島市→道南 ■ 北広島市→道北	■ 北広島市→道東 ■ 北広島市→道南 ■ 北広島市→道北
保有車両	■ ~20台 【小型・中型】平ボディ・バンボディ、 ウイングボディ	【大型】バンボディ・ウイングボディ 【その他】セミトレーラー
温度帯	■ 常温	■ 常温
時間帯	■ 早朝	■ 早朝
希望する連携内容	■ 積載率の向上	
話したい内容	1.【道南(○○)】 北広島市からの共同配送 2.【道東(○○・○○)】 北広島市からの共同配送 3.【道北(○○)】 北広島市からの共同配送 【注】○○には地名が入る	
コメント	弊社は北広島市近郊については複数の協力会社と提携しておりますが、北広島市近郊以外のは協力会社が無い状況にあります。コスト・労働時間削減の目的で将来的に道北、道東、道南エリアに向かう輸送を各社共同で実施していきたい。	

ロジスクの実際⑦(エントリーシート(荷主会社の例))

No.● ○○マーケット(株)

【注】下記は事実を基に作成した架空の内容です。

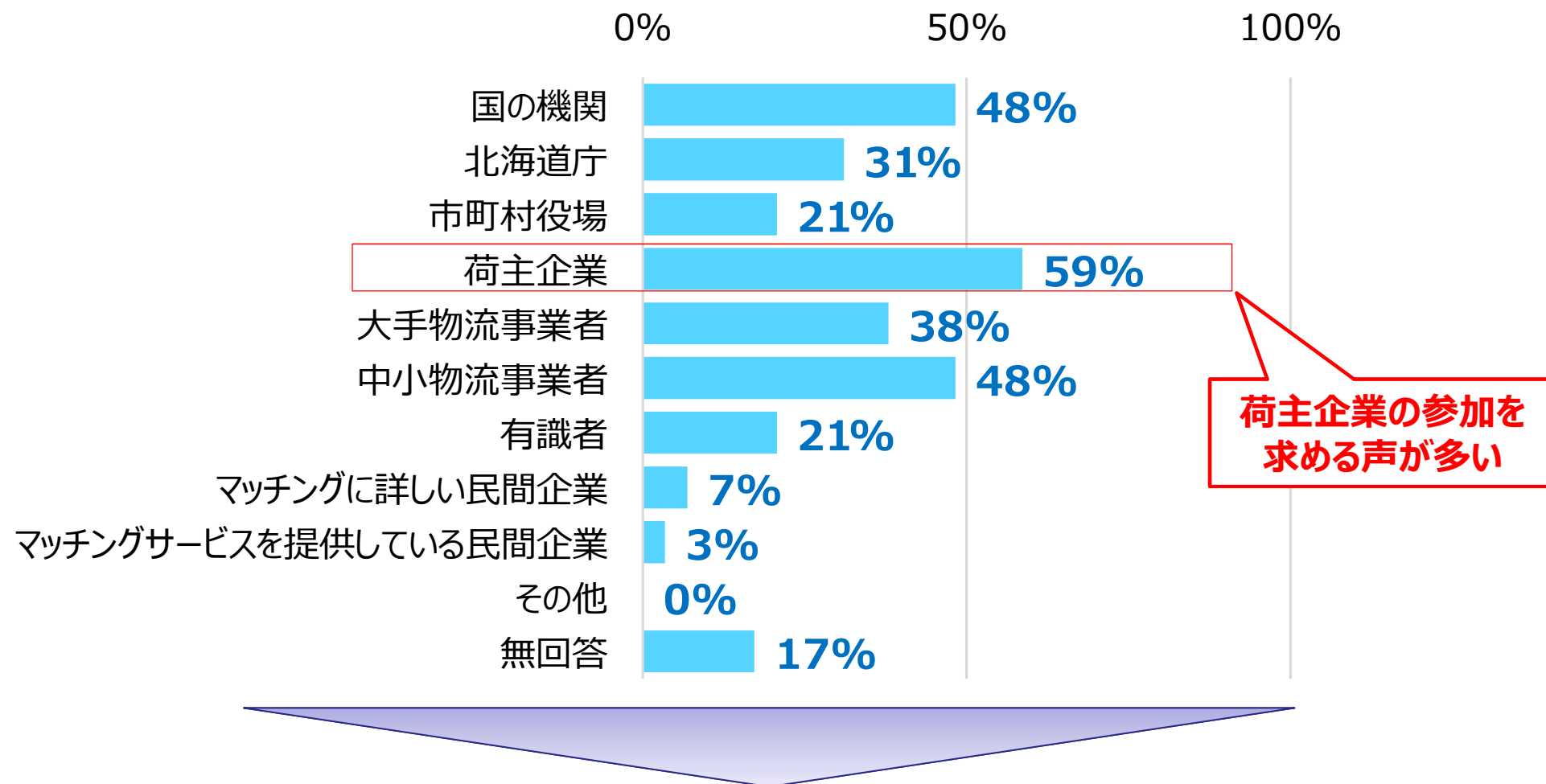
	自社の概要	マッチング希望の概要
輸送品目	☐ 日用品・雑貨 ☐ 食料品	
輸送ルート	☐ 札幌→道東エリア ☐ 札幌→道北エリア ☐ 札幌→道南エリア	☐ 道東エリア→札幌 ☐ 道北エリア→札幌 ☐ 道南エリア→札幌
保有車両	☐ 10～50台 ☐ 【中型】4tトラック ☐ 【大型】10tトラック	
温度帯	☐ 常温 ☐ 冷蔵 ☐ 冷凍	☐ 冷蔵 ☐ 冷凍
時間帯	☐ 早朝 ☐ 日中	☐ 日中 ☐ 夜間
希望する連携内容	☐ 帰り荷の確保 ☐ 中継輸送	
話したい内容	1.【道北(○○)】 帰り荷の確保または積載効率の向上 2.【道南(○○)】 ○○市の自社中継拠点を活用したい 【注】○○には地名が入る	
コメント	・ロジスクでお互いの知見を共有し合い、新たな価値を創造する場としたい。 ・より効率的で持続可能な物流体制を実現したい。 ・中継拠点を活用する等で配送に関わる効率化を目指したい。	

■ 開催結果

- ・アンケート結果
 - ①希望する参加企業の業種
 - ②マッチングに向けて
 - ③参加企業の感想
- ・「ロジスク」マッチング事例の紹介

アンケート結果①(希望する参加企業の業種)

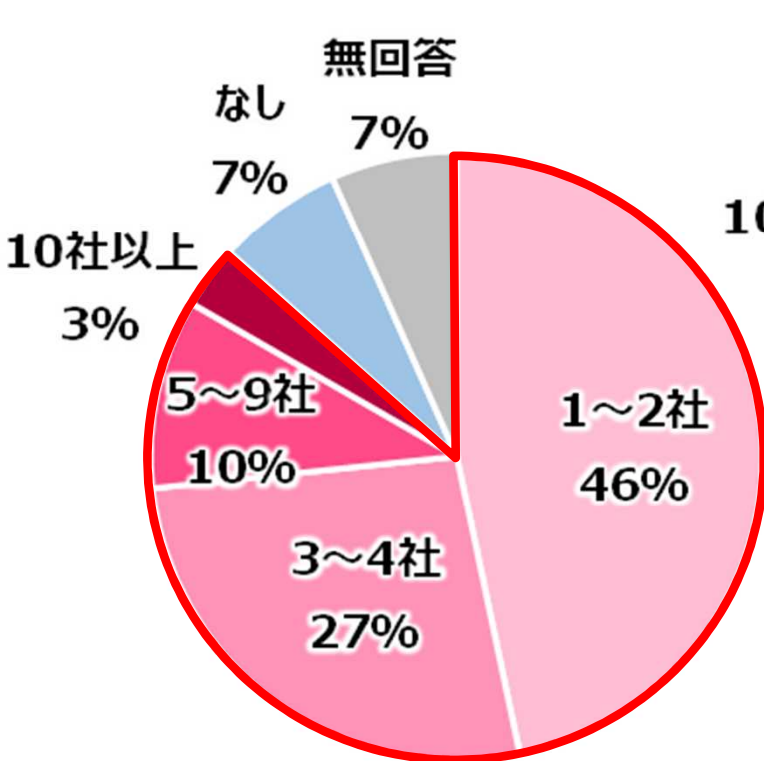
【R5道央】どのような方々の参加があれば共同輸送・中継輸送の成立がスムーズに行えると考えますか？



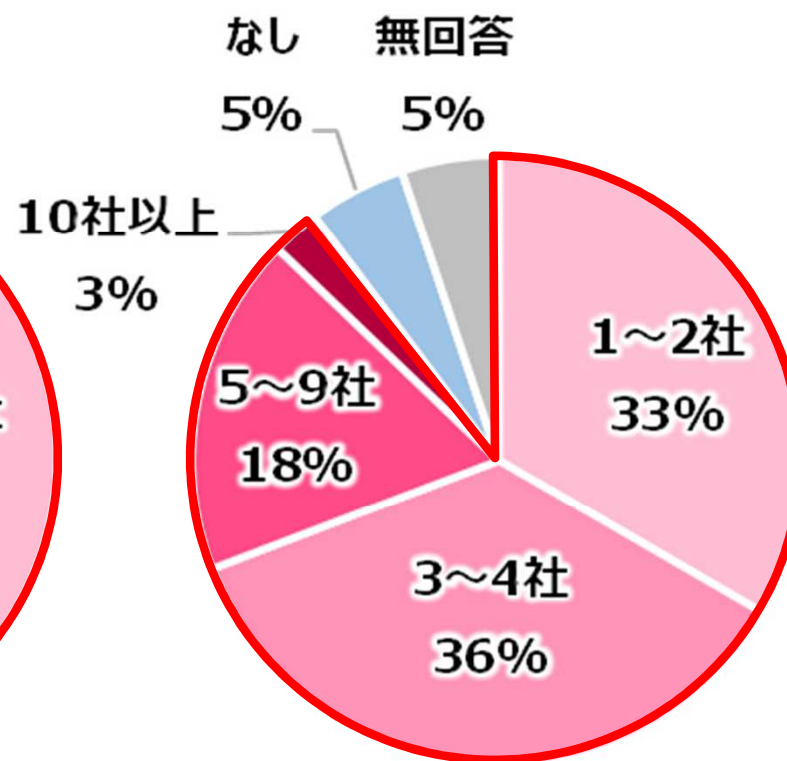
R 6 年度から、物流事業者に加え、荷主企業の参加も促す

アンケート結果②(マッチングに向けて)

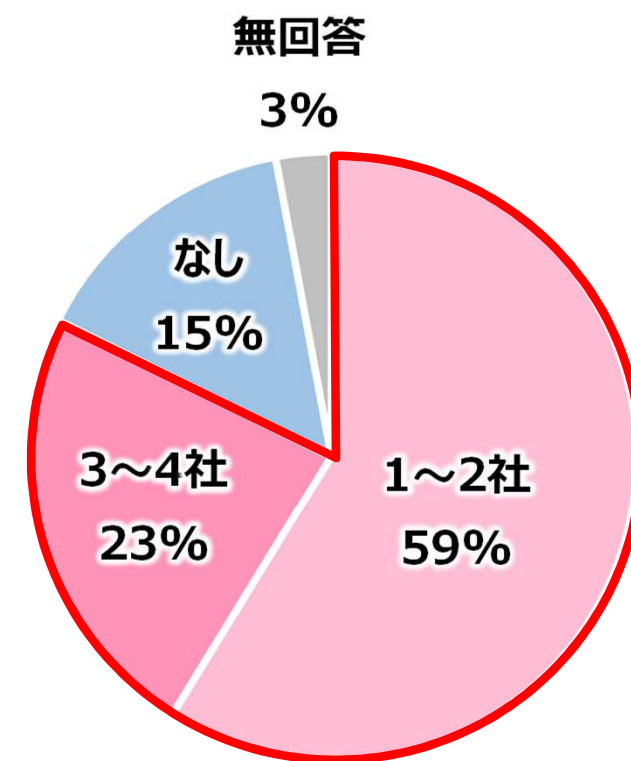
話が出来た企業のうち、マッチングに向けた話ができたと感じた企業は何社でしたか？



R 6 道東ロジスク



R 6 道南ロジスク



R 6 道北ロジスク

参加企業の概ね8~9割が、マッチングに向けた話が出来た

アンケート結果③(参加企業の感想)

【R6道東ロジスク】

A社: 近年、継続的に2024年問題に関する事柄が新聞紙に掲載されているが、地元だけでは実態が見えにくいと感じていたため、当会合の開催により、様々な企業と直接、協議できる貴重な機会が得られたと感じている。

【R6道南ロジスク】

B社: 2024年問題は、情報としては知っているものの、物流事業者と対面で話す機会がなかなかないため、本日は2024年問題に直面している現場のリアルな声を聞くことができ、大変有意義な機会となった。

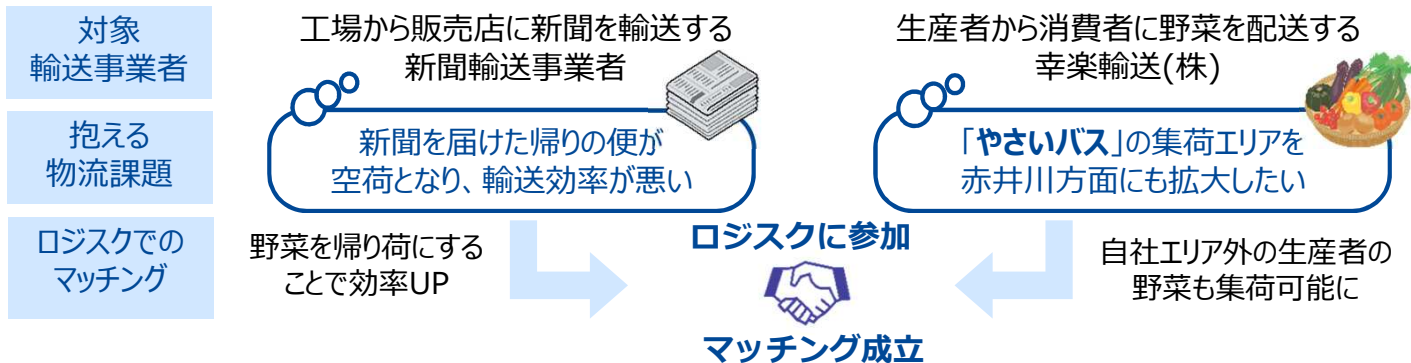
【R6道北ロジスク】

C社: 当社は道内全域に店舗を構えているため、過疎地域への輸送では、十分な輸送量が確保できない場合があることから、共同輸送や帰り荷の活用の可能性を探るため参加した。また機会があれば様々な相談をさせていただきたいと考えている。

「ロジスク」マッチング事例

～ 新聞輸送事業者 × 幸楽輸送(株) ～

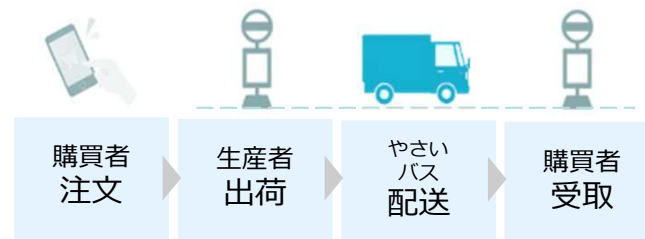
共同輸送の試験運用実現までの経緯



「新聞配達トラック」と「やさいバス」の共同輸送が決定、試験運用へ

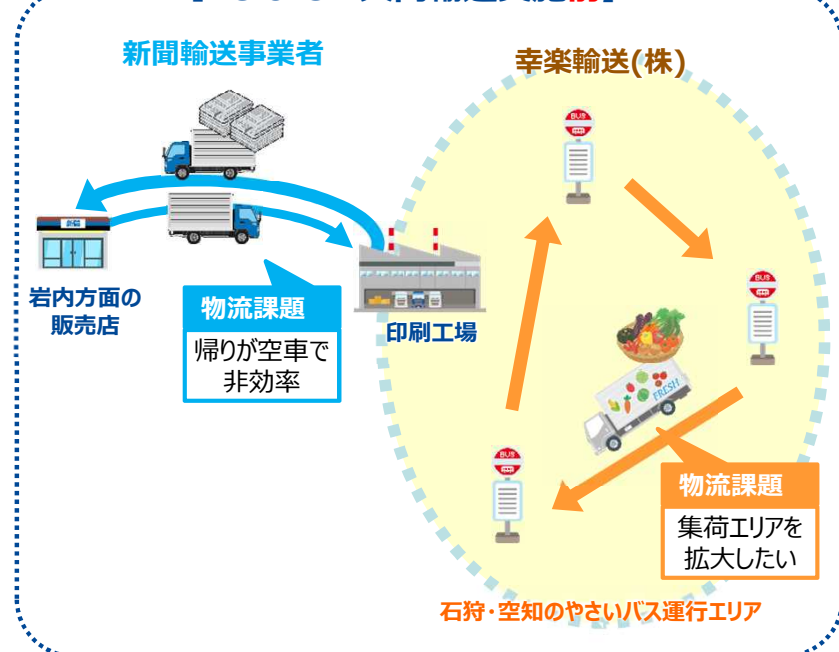
■「やさいバス」とは

売り手(生産者)が、指定された「バス停」に 農産物を持ち込み、買い手(小売業者・飲食店など)が待つ「バス停」まで届ける仕組み

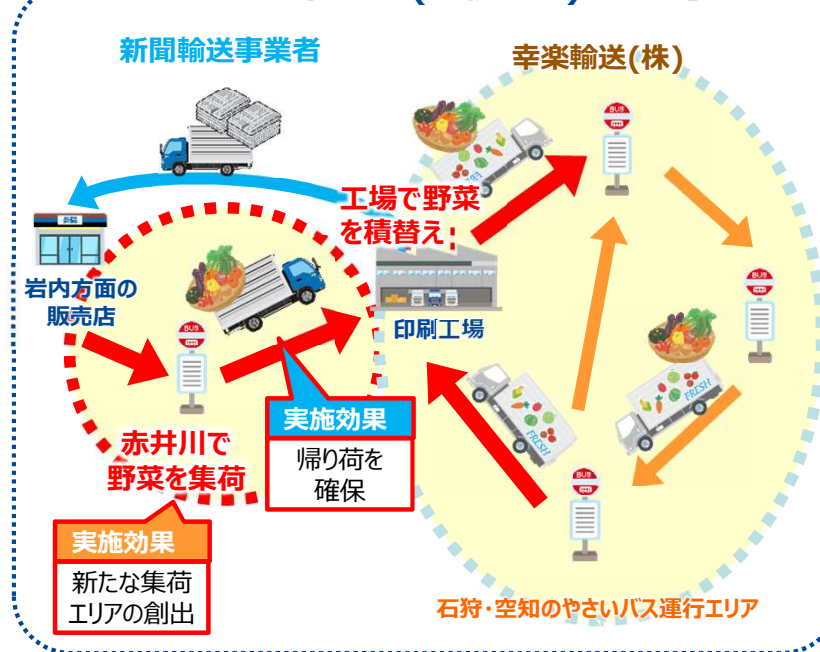


共同輸送試験運用の概要

【Before : 共同輸送実施前】



【After : 共同輸送(試験運用)実施後】



- 試験運用に使用する新聞配達トラックは、岩内方面の各販売店への配送便とする。
- 赤井川エリアにおける野菜の集荷・積込場所として、JA新おたる赤井川支所野菜集荷所をやさいバスの「バス停」とする。

**令和6年7月29日
試験運用開始**